

# どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No.12



# どうぶつと私…(8)

Animals and I

## 触れ合い(愛)、学び(和)、そして世話(知)へ

Contact Knowing and care-giving



黒田 長久  
山階鳥類研究所所長

地球の生物と人間は共通の場に生き、共通の化学成分を持ち共通の物理的法則で体形が成り立つ。ただ、進化の結果としての生態的地位の違いで相互の関係が規制される。進化は変化であり、“共通性ある多様化”である。

そこで、地球の生物と人間は同胞であり、鳥や獣とは最も近い類縁にある。人の幼児が幼鳥獣に生れつき親しみを持ち触れ合いを嬉ぶのもそれを示す。そして成長するにつれ色々な動物の種類や生活を学び、友としての野生動物を守り、共存するための世話(保護)を考えるようになる。これは、人類としての宿命的な“和”の行動である。

私も、この“触れ合い(愛)、学び(知)、そして世話(和)”を経験してきた。それは、7才での手乗り文鳥との触れ合い、次で、モズとの触れ合いに初まる。まず、許可を得てモズの雛を育て、成鳥は“モズ引き”(なわぼり性利用)や“ズク引き”(擬攻撃性利用)で捕えて飼った。その1羽は籠から出しても帰るまでになったが、野に戻した。モズの羽色は秋から春へ見違える程退色する。それを一連の写生図に描いたのが私の最初の“研究”だが戦禍で灰となった。しかし、その後も世界のモズの文献写しに山階鳥研に通い、それをまとめて鳥学会で“世界のモズ”と題して発表した。そして、この分類の研究から生態(まずムクドリから)へと鳥類研究の“知”の世界へ足を踏み入れた。

その一方で、鳥類保護、自然保護が次第に重要となり、それに携わるに従い、これは地球の同胞として、人類が自然や野生生物に与えた損害や圧迫を補償する(予防も含め)世話(“和”)の行動であるという認識を得た。

また、動物園事業にも参画し、動物園も動物との触れ合い(愛)、展示、繁殖の科学と技術(知)から、環境一動物一人が一体となる自然動物公園方式(和)へと進み、野生動物保護にも貢献する時代に入っていると私は思う。

# 目次

表紙・ローランドゴリラ……………	1
どうぶつと私(8)……………	2
「触れ合い(愛)、学び(知)、そして世話(和)へ」	
グラビア セーブルアンテロープ……………	3
特別展・家畜と人間……………	4
サマースクール……………	5
飼育レポート オランウータンの誕生……………	6
動物公園の動物⑧……………	7
動物公園の施設⑧……………	7
動物公園日誌から……………	8
飼育よもやま話……………	10
健康管理センターから……………	11

## 表紙の動物説明

### ゴリラ

ゴリラはアフリカ西部にすむニシローランドゴリラ、中央部のザイールにすむヒガシローランドゴリラ、やはり中央部のビルンガ火山帯のみにすむマウンテンゴリラの3つの亜種に分けられます。

体重は雄で150kg以上になりますが、食物はほとんど植物質で、木の葉や芽、タケ、野草、果実などを食べ、どちらかといえば、もの静かな動物です。

現在、日本の動物園で飼育されているゴリラは全てニシローランドゴリラです。

撮影・宮川千尋

## 動物飼育数

(平成2年7月31日現在)

哺乳類	77種	496点
鳥類	96種	415点
爬虫類	4種	22点
両生類	1種	2点
魚類	1種	2点
総計	179種	937点

グラビア

## セーブルアンテロープ

Sable Antelope

偶蹄目 ウシ科



撮影・宮川 千尋

アフリカにすむレイヨウで、この仲間の中では大型に属し、雄・雌ともに立派な角を持っています。哺乳類では雄・雌で体の色が異なるのは珍しいのですが、このレイヨウは雄が黒、雌が茶色で若い個体は雌と同じ色をしており、おとなになると雄は黒くなります。名前のセーブルはシベリアなどに生息しているクロテンの毛皮の名称でこれによく似ているのでこの名前がつけられたのです。立派な動物のわりに飼育例は少なく、本園に4頭と他の動物園に雄が2頭飼育されているにすぎません。

(宗近 功 Isao Munechika)

## はじめに

現在の人類の繁栄は家畜の存在なしには考えられないといわれます。

人類が野生動物を飼い馴らし、家畜化したことは、田畑を耕して作物を得ることと同様、人類にとって安定した食料の確保となり、今日の繁栄をうみだしたのです。しかし、そんな家畜たちも最近では身近にほとんど見かけなくなりました。

そこで今回、「家畜と人間」というテーマで特別展を開催しました。

「家畜とは」、「主な家畜の起源」、「あまり知られていない家畜」など、特別展のいくつかを御紹介しましょう。



## 1. 家畜とは

一言で言えば、家畜とは「その生殖が人の管理のもとにある動物」で「人間の生活にとって重要である動物」と言うことができます。

ゾウやトナカイなどは地域によっては、たいへん人の生活に役立っていますが、その生殖は完全には人の手にゆだねられていません。

そういう意味では、やはり真の家畜は、牛・馬・羊・ヤギ・ニワトリなどと言えるでしょう。

家畜は長い年月をかけてつくられてきたものです。これからは、バイオテクノロジーの応用で全く新しい家畜が産みだされる可能性もあり、素晴らしい家畜の誕生を期待したいものです。

## 2. 主な家畜の起源

### 1) ウシ

ウシの起源はヨーロッパ、西アジア、北アフリカなどに分布していたオーロックス（原牛）とよばれる野生牛です。オーロックスは、体の大きさが雄で1.9m、角の長さも90cmもあった大型の牛でしたが、1627年に絶滅してしまったので、現在では化石でしか知ることができません。

現在のウシは、このオーロックスを今から8,000年か



ら1万年前に家畜化したのが始まりです。

### 2) ウマ

家畜のウマの品種は全て二つの系統の子孫です。一つはアジア大陸中央部に分布していたモウコノウマで、現在もモンゴルやソビエトにわずかですが生き残っているとされます。もう一つはターバンでヨーロッパのほぼ全域とアジアの一部に生息していましたが、1,800年代に絶滅してしまいました。

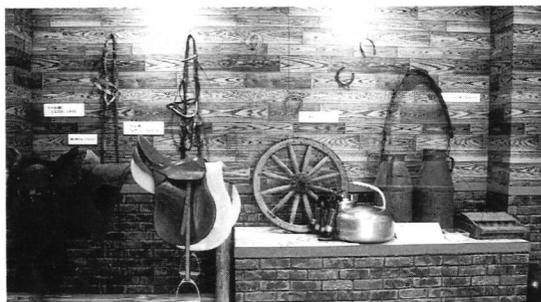
家畜としてのウマは新石器時代に食肉用として始まり、その後車を引かせたり、乗馬としての利用が始まりました。

### 3) ブタ

ブタは家畜の中でも同時期に世界の各地で飼われ始めた可能性の大きい動物です。エジプトでは紀元前3,000年にはすでに重要な家畜でしたし、中国では農耕が盛んになった紀元前2,500年頃にはブタも盛んに飼われていました。ブタはその性質から、定着した社会には受入れやすかったのですが、遊牧民には受入れられなかったと考えられます。ブタの野生原種はイノシシで、いまなお世界各地に多くの種類が生息しています。

### 3) あまり知られていない家畜

スイギュウ、ヒトコブラクダ、フタコブラクダ、ヤク、ラマ、トナカイ、カイウサギ、チンチラ、テンジクネズミや、地域によってはゾウも半家畜化されています。



展示した農器具

## 第6回サマースクール

The Sixth Summer School

第6回サマースクールが7月25日～27日にかけて、120名が参加して開催されました。

今回は、家畜の原種ゾーンをやってくれた、早川慎一郎君（4年）に写真で、榎本知佳さん（4年）には作文で紙上登場してもらいました。



まず、寝室を掃除して、寝ワラを外にだします。



餌のペレットを手にしながら説明を聞きます。



これは何でしょう？実は動物がなめる塩の固まりです。



ラクダとドア越しのご対面



観察したことをテキストにまとめています。

## 動物公園でのこと

榎本 知佳

今日は、動物公園の一日しいく当番でした。いつもはただ見ているだけだけど、動物のかいかたや、えさなんかはわからなかったけど実さいにやってみると、とてもつかれます。

フンをとって、フンをした所をあらう時なんか、くさくていやだった。

私たちがやった、仕事を毎日のように、やっているなんて、私たち以上につかれます。

毎日のように、そうじやえさやりをしているお兄さんおねえさんのことを、動物たちは、どう思っているんだろうか？

わたしは、いつも見ている時よりこうふんした。わたしたちの、くろうが動物たちにも、通じたかなあ？

もし、人間と動物が会話できたら、きっとすてきになるだろうなあ。でも、きもちや、顔をおぼえてくれば、十分だ。

友だちや、いろんな動物と仲よくなれる、チャンスが、このしいく当番だと、わたしはそう思います。

## オランウータンの誕生

The Birth of an Orang-utan

## ○はじめに

1990年4月27日、当園にて飼育中のオランウータン雄（ラーマン）と東京都多摩動物公園よりブリーディングローンにて借り受け中の雌（キャンディー）との間に初めての出産がみられ、現在親子共に順調に育っていますので、その経過を報告いたします。

※ブリーディングローン（繁殖用貸借）

## ○両親について

雄は1985年3月29日にシンガポール動物園より寄贈された個体で、性質は穏やかで粗暴な面はまったくみられず、健康状態はほぼ順調で現在に至っており推定年齢は16歳です。

雌は多摩動物公園で1978年8月に生まれた現在12歳の個体で、1988年8月に来園しました。こちらも性質は温順で、健康状態も良好です。

## ○同居について

1989年に入って同居に踏み切り、危害を加える様子もなく相性も悪くないと判断し、以後、たびたび同居を試み1989年4月に初めての交尾が観察され、その後も頻繁に交尾を繰り返すのが確認されました。



生後29日目

## ○出産までの経過

キャンディーの性周期はほぼ規則的にみられ、その平均は34日でした。出血もごく微量ですがみられ、1989年9月にはその出血も確認できなくなり妊娠の可能性もあるとみて尿中ホルモン、体の変化、採食状況など、より細かな注意を払うようにしました。

そしてその年の12月頃のホルモン値が極めて高い値を示すようになり、妊娠は確実なものと思われ、出産に備えました。

オランウータンの妊娠期間は最終生理日を起点にして定め、出産予定日を算定します。一般的にはその期間は約260日といわれますので、キャンディーの出産予定日は1990年5月中旬と予測しました。

1990年に入ると乳頭も梅干大となり、腹囲の膨大も若干ですが目立つようになりました。また外陰部の腫脹も水腫状を呈するようになり、親子共順調に生育している様子がうかがえました。食物の偏食などもみられず平常と変わることなく4月27日を迎えました。



生後110日目

## ○出産から現在に至るまでの経過

4月27日午前8時の見回りの時、キャンディーはすでに仔を胸に抱き、仔の首に臍の尾が軽く巻きついた状態で見ることができました。室内には分娩時の出血残溜も多く、後産もすでに排出され、時になめたりしていました。臍の尾を咬み切ろうとする動作も何度かみましたがうまくいかず、結局午後2時頃に担当獣医がハサミで切断することに成功しました。

その後、仔の授乳を確認したのが1週間後の5月5日のことでした。とてもキャンディーの仔の扱いが上手で安心してみられる状態がいまも続いています。親が仔を離さずに育てている為に、その仔の発育状況を数値として表わすことができないのが残念ですが、仔の表情から順調な生育を確信しています。性別は雌でした。

生後100日も経過しましたので、まもなく歯も生え出して、食べ物の摂取も観察されることでしょう。キャンディーの子育ての姿と、行動範囲も徐々に広がり活発な動きをみせてきたヤンチャ娘を広い放牧場でじっくりご覧いただけるものと思います。

（牧野 辰男 Tatsuo Makino）

## 動物公園の動物⑧

Animals in the Chiba Zoological Park

### イヌワシ

Golden Eagle

皆さん、ワシというと、どういう姿を連想されるでしょうか。きっと大きな体に、鋭い爪と嘴、刺すような瞳を思い浮かべられることでしょう。今回、紹介するイヌワシは、正に、それを絵に書いたようなワシです。

イヌワシは、南は北アフリカから、北はユーラシア、北アメリカ大陸北部までと、北半球に広く分布している大型のワシです。体長は、雄で約81cm、雌で89cmに達し、大きな雌では翼を広げると2m以上にもなります。羽色は褐色ですが、後頭部の羽毛が、金色を呈するところから、英名ではゴールデンイーグルと呼ばれています。

イヌワシは、樹木が少ない山岳地帯につがいで生活します。彼らは広いなわばりを持ち、空高く飛翔しながら鋭い視力を武器に獲物を探します。獲物を見つけると急降下し、強力な爪で捕まえます。餌は主にノウサギやヤマドリ、キジなどですが、時には仔ジカなどの大きな動物も捕まえます。

繁殖期は二月初め頃から始まります。断崖の岩棚に



枯枝を組み上げて巨大な巣を造り、普通2個の卵を産みます。卵は主に雌が温め、雄はその間、雌に餌を運んでやります。卵は45日ほどで孵り、ヒナは白い綿毛に包まれています。ヒナどうして激しい餌の奪い合いが起こるため、普通一羽しか育ちません。イヌワシは、人間以外に天敵など存在しない鳥の王様ですが、反面このような激しい一面も持ち合わせています。ヒナは約80日ほどで巣立ち、完全な成鳥羽になるまで五年ほどかかります。

当園では一つがいが飼育されております。彼らの威厳に満ちた誇り高き姿は、私達に、野生に生きるもの

の美しさを十二分に伝えてくれます。  
(松本 和人 Kazuhito Matsumoto)

## 動物公園の施設⑧

Facilities of the Chiba Zoological Park

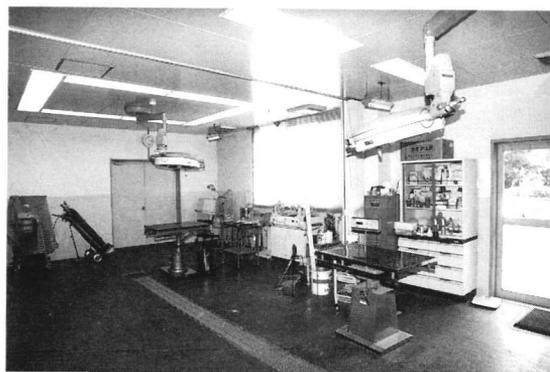
### 動物病院

Veterinary Hospital

動物公園の中には動物展示施設の他に、見せることを目的としていない裏の施設がいくつかあります。今回はそのひとつ、本誌の連載でもおなじみの健康管理センター、通称「病院」を紹介いたしましょう。

健康管理センターは人間ではなく動物の健康管理をするところで、病院の呼び名から推測されるような病気の動物の入院、治療だけではなく、健康な動物に対する病気の予防処置や、新着動物を飼育して病気をもっていないかなどを調べる「検疫」を行ったりします。また、野生の鳥や獣が傷を負って持ち込まれた場合の受け入れ場所でもあります。

実際には健康管理センターにいる動物達は病気ではないものも多いのです。大勢の人の目にさらされない静かな環境で子作りに励んでもらうために収容されていたり(アビシニアコロボスやアカコンゴウインコはここで何回も子供が育っています)、展示場で他の個体とけんかして同居できない動物などもいます。また、健康管理センターの中には孵卵育雛室があって、親が面倒を見ない卵をかえしてヒナを育てたりもしています。



動物公園にはさまざまな動物がおり、いろいろな病気やけがをするので人間用や動物用の薬が、麻酔薬や抗生物質などの注射や飲み薬から目薬までそろっています。動物の治療を行うときは、動物を運ぶより人間が出かけていく方がずっと楽ですから、簡単な治療は動物が普段いる獣舎で行います。少し手の込んだ治療や手術をしたり、特別な検査が必要な場合は健康管理センターまで運んできます。けれども動物には自分が何をされるのかわかりませんから、これはたいてい大騒ぎです。集中治療が必要な場合は入院となります。また残念ながら死亡してしまった場合には今後の飼育の参考にするために解剖して死因が調べられます。

動物公園の動物達がいつも健康で元気な姿をお見せできるようにバックアップしているのが健康管理センターなのです。  
(米田 久美子 Kumiko Yoneda)

# 動物公園日誌から

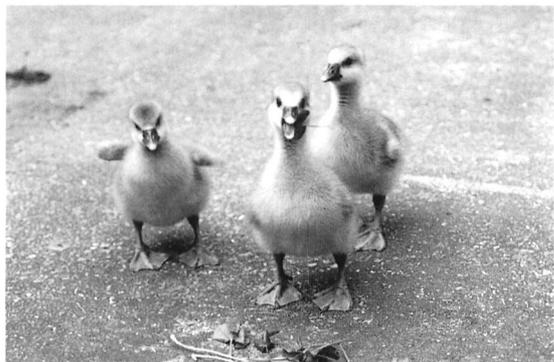
From Zoological Park Diary

'90年 2月1日～'90年 7月31日

- 2月1日 大雪のため、動物は早目に収容する  
" スリランカ駐日大使、来園する
- 2月2日 積雪や凍結のため展示できない動物が多い
- 2月4日 「ゆかいな森の音楽会」開催
- 2月5日 ゲルディモンキー、繁殖する(1頭)
- 2月6日 雄ゾウ(スラタラ)両牙を折る
- 2月8日 レッサーパンダ ペアリングを行い交尾を確認する
- 2月11日 春一番が吹き、ブリーディング放飼場内の松の木が倒れる
- 2月13日 オランウータン(キャンディー)の腹部かなり目立ってくる
- 2月15日 飼育技師認定試験実施される
- 2月17日 フタコブラクダ、繁殖する(1頭)
- 2月22日 タンチョウ1羽、広島市立安佐動物公園より到着する
- 2月24日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催(タンチョウ)
- 2月26日 キジ、ヤマドリ類にニューカッスル病の子防注射を行う  
タンチョウ1羽、広島市立安佐動物公園へ搬出する
- 3月2日 雄トナカイの左角落ちる
- 3月3日 雄トナカイの右角も落ちる
- 3月4日 「春のZOOクイズラリー」開催
- 3月8日 フンボルトペンギン、産卵する
- 3月9日 オオカンガルーの仔、育児豪から落ち死亡する
- 3月11日 シルバールトン、繁殖する(1頭)
- 3月12日 園内に落雷したため、ゾウ舎の電動扉作動せず
- 3月17日 オセロットの仔、死亡する
- 3月19日 アオエリヤケイ4羽、新着する
- 3月21日 マレーバクの雌、死亡する
- 3月22日 ルリコンゴウインコ、1羽ふ化する
- 3月24日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催(レッサーパンダ)
- 3月25日 トビ1羽、一般保護
- 3月27日 レッサーパンダ(雄1頭、雌1頭)新着
- 3月28日 ハワイガン3羽、ふ化する
- 3月29日 ゴリラ(雄1頭、雌1頭)新着
- 3月30日 ビーバー1頭、新着する
- 4月2日 新規採用職員(飼育係)2名着任
- 4月5日 姉妹都市ノースバンクーバー市から寄贈されたトーテムポールの贈呈式を行う



- 4月6日 ヒツジの毛刈りを始める
- 4月11日 ヒツジ(コリデル)繁殖する
- 4月12日 ゴリラ、屋内展示室で一般公開
- 4月13日 ケープペンギン、1羽ふ化する
- 4月16日 ケープペンギン、2羽目もふ化、2羽とも人工育雛とする
- 4月17日 アオエリヤケイ2羽、ヤケイ舎に展示する
- 4月19日 ヒオドシジュケイ2羽、展示する
- 4月21日 ハワイガンのヒナ1羽、死亡する
- 4月23日 ゴリラ、初めて屋外放飼場に出す



- 4月26日 キバシハイイロガンのヒナ3羽、ふ化する
- 4月27日 オランウータン(キャンディー)出産する
- 4月28日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催(フクロテナガザル)
- 4月30日 ジェンツーペンギン1羽、死亡する
- 5月2日 ゴリラ、通常の公開時間とする



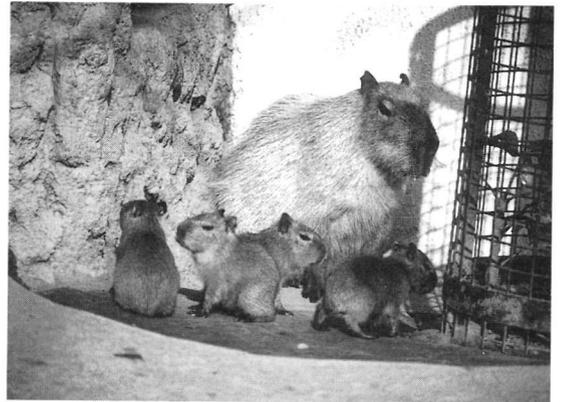
5月5日 トナカイ、繁殖する

- 5月6日 入園者が多いため、閉園を午後5時までとする
- 5月7日 コクガン1羽、死亡する
- 5月10日 ヤク1頭、アクシスジカ2頭、ムフロン3頭、払い下げる
- 5月11日 アカカンガルーの仔、育児豪から初めて外に出る
- 5月13日 アメリカアカリス、繁殖する  
" 「愛鳥週間特別講演会」開催
- 5月14日 暑いため、トナカイ舎にヨシズを張る  
ワタボウシパンシェ、動物交換で市川市動植物園へ
- 5月15日 ダチョウ産卵保護用の囲いをする
- 5月16日 ハシビロコウ2羽、タンチョウ池放飼場に展示する
- 5月17日 アルマジロ1頭、死亡する
- 5月18日 ニホンザル、繁殖する
- 5月21日 ダマワラビーの仔、育児豪から初めて顔をだす
- 5月25日 北九州市「ひびき公園」の吉永さん草原ゾーンで研修
- 5月26日 ロバ、繁殖する  
" 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（セーブルアンテロープ）
- 5月28日 オオカンガルー1頭、北九州市「ひびき公園」へ寄贈する  
ピグミーマーモセット繁殖する
- 6月1日 ペニバシガモ、自然ふ化したが、親が世話をしないため人工育雛とする
- 6月2日 ホンドザル、繁殖する  
ヘビクイワシ1羽、死亡する
- 6月3日 「動物を計る会」開催
- 6月5日 28日生れのピグミーマーモセットの仔、死亡する
- 6月6日 新潟水族館の飼育職員2名、飼育研修を行う
- 6月7日 ペニイロフラミンゴ、産卵する
- 6月10日 リスザル、繁殖する



6月10日 「羊の毛刈りと紡毛教室」開催

- 6月11日 ヤギ、ヒツジ全頭に腰麻痺の予防注射を実施する
- 6月12日 ゴリラとオランウータン親子、屋外で一般公開する
- 6月13日 モウコノウマとアジアノロバに日本脳炎の予防注射を実施する
- 6月15日 ルーセットオオコウモリ、繁殖する
- 6月16日 ヒメマガン、産卵する
- 6月18日 アクシスジカの雄、角切りを行う
- 6月22日 オオカンガルーの仔、育児豪から初めて顔をだす
- 6月23日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（ペンギン）



6月29日 カピバラ、繁殖する、仔は5頭

- アジアノロバ、繁殖するが、仔はすぐ死亡する
- 6月30日 29日繁殖したカピバラの仔、1頭死亡する
- 7月1日～31日 動物愛護標語募集  
" ～10月10日 「動物公園写真コンクール」開催
- 7月5日 コモンマーモセット、繁殖する
- 7月8日 リスザル繁殖する
- 7月9日 人工育雛のケープペンギンのヒナ、初めて泳がせる
- 7月11日 ホンドザル、繁殖する
- 7月13日 ゴリラの床敷として木綿を入れてみる
- 7月16日 ダチョウ、左脚趾脱臼する
- 7月19日 サル比較舎放飼場にヨシズを張る
- 7月23日 レッサーパンダ舎放飼場にヨシズを張る
- 7月25日～27日 第6回サマースクール開催
- 7月28日 柏井高校生徒、園内大池でカルガモ7羽を放鳥する  
" ダチョウ、雌1羽死亡する  
" 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（マーモセット）
- 7月29日 ペンギン池にシャワーをつける

# 飼育よもやま話

Animal Episode

## ダチョウの放飼場に謎の白い物体現わる

A White Mysterious Object in the Ostrich Enclosure

3月27日の夕方、いつも通り一日の最後の仕事であるダチョウの放飼場の点検を始めました。危険な物が入り混んでいないか点検するのです。放飼場には風に吹かれたりして様々なゴミがよく転がり込んできます。ビニール袋やジュースの空缶など、時にはお客さんが遊ぶ為に持ってきたボールが転がっている事もあります。この日も、あったあったボールが、バレーボールかな？いやいやもっと歪な形、ラグビーボール？いやいや白いラグビーボールなんて見たこと無いぞ……などとぶつくさ言いながら近くまで行ってみてびっくり！「こ、こいつはもしや……」とたんに自分の顔が緩みきってニヤニヤとしてくるのがわかります。そしてこの謎の物体の傍らにたたずんで、「ヤッター！」そのこの“謎の白い物体”はダチョウの卵だったので。

結局今年は、2羽の雌がかわるがわる29個の卵を産

## フンボルトペンギンの人工育雛

Hand-rearing of a Humboldt Penguin

1990年春、桜の花も散り、動物公園はこれから本格的な出産ラッシュが始まろうとしている頃、子ども動物園の中央にあるペンギン池で2個の卵があるのを見つけました。しかしその内の1つは足の具合の悪い親ペンギン、ピョコタンにつぶされてしまい、残り1個を取り上げて飼育センターにある孵卵器で温めたところ、翌日孵化し、人工育雛をすることになりました。

雛を育てるうえで餌に一番気を遣い、できるだけ親が与えるものと同じ状態に近づけるのに、小アジを3枚におろして小骨を取り除き、包丁で細かくたたいてからすり鉢でドロドロになるまですり、骨粉とビタミン剤を混ぜ合わせたものを注射筒の中に入れて与えるという、手の込んだことを毎日やっていくわけですが、それでも日を追うごとに体重も増え、ペンギンらしく



生後5日目

なりました。人工ふ化と、親にそのまま抱かせる自然ふ化の双方を試みましたが、残念ながら全て無精卵だった様です。

さてダチョウの卵が大きいことは皆さんご存知でしょう。サイズは長径14~17cm、短径11~17cm、重さはなんと1,200~1,500gもあります。ニワトリの卵は約60gですから、なんと約25個分という事になります。私の知るかぎりではアメリカのある動物園で1羽の雌が1年間に26個の卵を産んだ記録があります。なんとニワトリの卵650個分、当然ニワトリが1年間毎日産んでも歯が立ちません。しかし体重はニワトリのゆうに200倍はありますから効率は良くはありません。

さて、来年こそは全てふ化させたいものです。私の夢は放飼場をダチョウの雛で一杯にすることなのです。この夢が実った時は、そのエピソードを是非みなさんにお伝えしたいと思います。

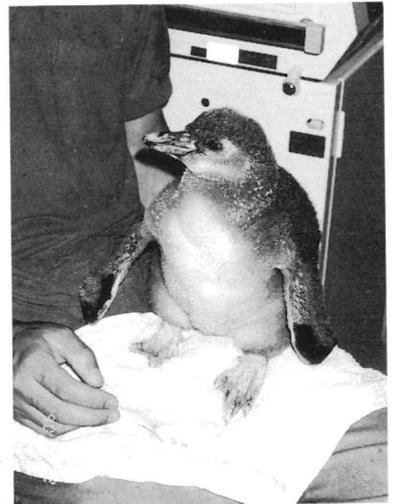
(清田 義昭 Yoshiaki Kiyota)

なっていく姿を見ているとそんな手間も何のそのという感じがしてきます。

その後もペンギンの体重は順調に増え続け、飼育箱が小さくなったのか、夜ごとそこからはい出てナーサリールームの床を糞だらけにしながら闊歩しています。

また羽ばこりも目立ってきたので、飼育場所を屋外へと移すことになり、そこでは水を入れた容器を置いて泳がせる訓練をしていきました。

今では羽もすっかりぬけ変わり、体重も3,000g程度にまでなりました。まだ自分では魚をつかまえて食べることができませんし、潜水も上手ではありません。



生後60日目

また、気温の変化や季節の変わりめに体調を崩したこともありましたが。しかしここまで大きな病気もせず育ってくれて良かったと思い、このペンギンが何年後に親となり、自分の卵を温め、孵化させる姿を想像しながらペンギン池の掃除をしている今日この頃です。

(樽川 修 Osamu Tarukawa)

# 健康管理センターから

From the Animal Health Center

## コロブスのクプ一家

A Colobus Family

オレはクプ、今、妻2頭とこども3頭で健康管理センター内の順化施設の1号室で暮らしている

オレたちは、サル比較舎にもいるアビシニアコロブスだが、比較舎の連中よりも尾がフサフサしていて、自分ではきれいでカッコイイと勝手に思っている。奴らとはアフリカで住んでいた場所が少し違う亜種なのだそうだ。

オレたちの体の色は黒と白のツートンカラーで、顔の白い輪郭や黒い帽子、白でフチ取られたマントを羽織った背中etc。決して同じ白黒のパンダに見劣りしないと思うのだが、彼らはあんなに人気があってオレたちが不人気なのは不思議という他はない。

オレは妻のラムと5年前、動物公園ができる前に横浜の動物園から引っ越してきた。もう1頭の妻のメムともその時出会った。彼女は名古屋の方にいたらしく少し名古屋弁がかかっている。2頭の妻はかわいくて気に入っている。係員のM君はオレのことがうらやましそうだ。

千葉へ来てから5頭のこどもが生まれたが、今はその内の2頭が残っている。チックとキックだ。まあ狭い家なので、こどもを他へやるのは仕方ないが、少し寂しい気もする。他に浜松から来たミクがいる。まだ



ガキだが、4～5年後には3頭目の妻にすることになっている。

今の住まいは南向きで陽当たりがよく冬も暖かい。それに、お客さんが通らないので静かで、柵の向こうには林もあり大変環境が良い。毎日のんびりと子育てにはげんでいる。ただ葉食主義者なので向こうの林にある様な葉っぱが食べられると最高だが。今年の夏は気候の温暖化とかでかなり暑いですが、うちは風通しも良く快適である。

機会があれば、お客さん達にうちの自慢の家族を見てもらいたいと思うのだが。

(中村 誠 Makoto Nakamura)

## 平成2年度後期行事予定

行 事 名	時 期	内 容
特別展「家畜と人間Part II」	10月1日～	人間生活の中で家畜の果たしてきた役割を紹介します。
親と子の自然と遊ぶ教室	10月14日	草木や木の実で遊びながら自然と親しむ、楽しい教室です。
秋のZOOクイズラリー	11月4日	園内の動物にちなんだクイズを行ないます。
動物公園写真コンクール作品展	11月1日～30日	入選作品の展示を行います。記念講演会及び表彰式(11月11日)。
動物公園のクリスマス	12月2日	クリスマスにちなんでツリーのかざりつけやカードを作ります。
バードウォッチング	1月上旬	園内の野鳥の観察を行います。
春のZOOクイズラリー	3月上旬	園内の動物にちなんだクイズを行ないます。
動物公園ワンポイントウォッチング	毎月第4土曜日	動物公園の最新の話題と動物のワンポイントガイドを行います。



ベニコンゴウインコ